

2025 年度第 1 四半期決算説明会 主な質疑応答

広報・I R 部

Q1：米国関税政策に関する直接的な影響額はどの程度あると試算しているか？また、関税に伴うコスト増に関してどのような対応を考えているか？

A1：上期には大きな影響は出ない見通しだが、下期にオートモーティブ・電子関連を中心に影響が出る可能性がある。オートモーティブは、基本的に地産地消の事業であるため関税影響は少ない。日本からの完成車の対米輸出への影響によっては、当社にも影響が生じうるが、現時点ではお客様からの情報をもとに考えると、それほど大きな影響は出ないと考えている。電子事業の液晶ディスプレイ用ガラス基板は、直接的な大きな影響はない。中国で多くの液晶パネルがお客様のもとで生産され、その後に周辺国へ TV セット生産用に輸出されている。中国のお客様から直接米国に輸出される部分については影響を受ける可能性があるものの、影響度合いは大きくない。電子事業の電子部材は、AGC が日本で生産し米国へ輸出したり、お客様から米国へ輸出するものがある。お客様がサプライチェーンをどのように描いていく次第であるため読みづらい。いずれにしても下期影響が大きいとは言えない。関税に伴う大きなコスト増があるとは見ていない。米国で生産するものは米国での調達が多く、また、日本では米国から輸入した部材を用いることは限定的である。

Q2：1Q に関税引き上げ前の前倒し需要はあったか？

A2：特にはなかった。

Q3：1Q のセグメントの実績について、それぞれ想定との差を聞きたい。また、1Q 比 2Q のセグメント毎の営業利益の方向性はどのように見ているか？

A3：全体感としては、今期の営業利益 1,500 億円のうち上期は 650 億円の想定なので、1Q 実績 258 億円というのは想定よりやや低い。建築ガラスは特に欧州で昨年冬季にガス価格が高騰し、これを主因として想定を下回った。オートモーティブは品種構成や価格政策効果があり想定を上回った。電子もディスプレイや半導体関連が出荷旺盛で、想定を上回った。化学品は東南アジアが想定よりも弱かったため、やや低調であった。ライフサイエンスは固定費削減効果が計画通りであった一方、ボルダー拠点の生産不具合によって想定を下回った。2Q は、全体では 1Q 比増収増益と見ている。建築ガラスは日本・アジアでは需要が増加し、欧州では価格政策効果を見込んでいるため増収増益と見ている。オートモーティブは季節性のため 1Q 比では減収減益と見ている。電子は若干、減収減益と見ている。ディスプレイの出荷は堅調な推移が見込まれるが、電子部材は 1Q 出荷が想定よりも多かったため 2Q に反動が生じる可能性がある。化学品は増収増益と見ている。1Q は定期修繕および東南アジアのメンテナンス影響で出荷が減少したが、これが剥落するため出荷が増加する見通しである。ライフサイエンスは増収増益となり、赤字が縮小する見通しである。ボルダー拠点は商用生産に苦戦しているため、引き続き注視する必要がある。

Q4：通期計画の達成確度について教えてほしい。

A4：通期計画は変更していないが、1Q の進捗率を鑑みると今後全社で挽回策が必要な状況である。建築ガラスは、欧州の値上げ次第であるが、足元すでに効果が出ているため現時点では見通しの修正は不要と考えている。オートモーティブは好調な出だしである。昨年の北米での生産・出荷トラブルは概ね終息している。米国関税リスクはあるものの堅調な推移が見込まれる。電子についても大きな懸念はない。ディスプレイの収益改善策は順調に推移しており、また半導体関連部材の一部の出荷の不透明感は織り込み済みである。化学品のパフォーマンスケミカルズはそれほど心配していないが、エッセンシャルケミカルズの市況は足元悪い状況が続いている。中国の塩ビ輸出価格がポイントだが、読めない。ライフサイエンスは受注そのものは計画通り取れている。ポイントはボルダーで、いかに改善できるかにかかっている。

Q5：ディスプレイやガラス、ライフサイエンスなど、構造改革・収益改善策に取り組んでいる事業を中心に、その進捗についてアップデートいただきたい。また、追加的なアクションを検討しているか教えてほしい。

A5：ディスプレイは予定通り、2割程度の生産能力削減が完了している。現時点では追加の構造改革は不要と考えている。大型パネルへの注力を継続する。価格政策や技術革新についても予定通り進捗中である。建築ガラスは欧州ベルギーで一窯停止中であり、人員削減も実施済みである。建築ガラスの欧州は価格政策効果の発現による回復を見込んでいる。オートモーティブは従前より欧州・米国での構造改革を進めており、計画通り進捗している。ライフサイエンスは昨年シアトルで人員削減、ロングモントの拠点閉鎖を実施済みである。現時点、決定済みの追加施策はないが、必要に応じて適宜、適切に対応していく。

**Q6：ライフサイエンスのボルダーク拠点における新たな生産不具合とは具体的に何か？その影響はいつ頃までに解消出来るそう
か？**

A6：ポルダー拠点で AGC として唯一の 2 万リットル規模のステンレス培養に取り組んでいるが、スムーズに立ち上がりず遅延が生じていた。昨年末頃に量産の目途がつき、量産を開始した。その後、本格生産に向けて取り組んでいたが、生産上の問題が生じ、1Q 業績の足を引っ張った。具体的な事象については、言及を差し控えさせていただきたい。2Q 中には解決策、あるいは解消の見通しをつけたいが、現時点では確実に解消するとはまでは申し上げづらい状況である。

Q7：ライフサイエンスの事業の 25 年見通しについて、1Q 業績説明会資料 P.23 に「2Q 以降の売上高増により損益改善」とあるが、拠点別・フェーズ別でどう見ているか？

A7：バイオ医薬品 CDMO 事業についてだが、コペンハーゲンでは新設備が昨年秋に立ち上がっており、受注を獲得している。シアトルにおいても受注は獲得済みのため、今後確実に売上が増加していく。本来であれば規模の大きなボルダーも増収期待があったが、現時点では不透明である。

Q8：米国の関税政策に関連して、他社では米国や欧州のCDMOに対する引き合いが増えていると聞かすが、AGCはどうか。

A8：バイオセキュアクトの影響もあり、中国以外からの調達の見直しが増加しているため、当社にとっても追い風である。

**Q9：建築ガラスについて、競合からは「1-3月に環境が多少好転した」とのコメントがあった。一方、AGCは厳しい状況のよう
に映るため、欧州の事業環境について改めて説明してほしい。**

A9：昨年末よりガス価格が高騰し、影響が非常に大きかった。足元は低下しているため、コストも下がってきている。すでに値上げをアナウンス済みで足元効果が出始めている。業績のボトムは抜けているので、2Qから改善することは間違いない。1Q後半には好転の兆しが見えているため、競合と似たような状況と言えるだろう。

Q10：オートモーティブは QoQ で 4%の増収に対して営業利益は 3 倍以上の大幅増益である。この背景を要因別に説明してほしい。また営業利益率が 6%となったが、持続性をどのように見ればよいのか？

A10：価格政策効果もあるが、特に北米コストを中心としたコスト良化の影響が大きい。営業利益率 6%は通過点と考えている。Volume to Value 戦略に基づき、Volume は追わず、Value を重視している。本年の ROCE10%超達成、およびその後の収益性改善まで着実に取り組んでいきたい。

Q11：液晶ディスプレイ用ガラス基板は QoQ でどの程度価格改定が進んだか？2Q 以降の需要、価格の考え方についてコメントをお願いしたい。また、関税前の駆け込み需要があったか否かに関しても教えてほしい。

A11 : QoQ の価格改定効果は大きくなく、1Q 業績にはコスト改善が寄与している。2Q 以降の需要は、現時点では堅調に

推移するものと捉えている。関税影響は多少出るかもしれないが、先の回答のとおり、限定的と見ている。関税前の駆け込みもあり見られなかったため、その反動については心配していない。

Q12：EUVマスクブランクスについて、競合は2nmより先のノードにおいても順調に研究開発が進んでいるようだが、AGCはどうか？

A12：当社の技術レベルは競合と比較して遜色ないと認識しており、新しいノードについても同様である。7~2nm(Low NA)については開発完了済みであり、ロジックについても1.4~0.7nm(High NA)を開発中。0.7nmも開発中であり、順調に進捗している。

Q13：EUVマスクブランクの需要はお客様によって濃淡があるか？今期をベースとした売上高の成長率イメージも教えてほしい。

A13：EUVはロジックに加えてメモリーへの適用も増加しているため、お客様によって濃淡はあるが、市場全体では成長していくことが見込まれる。AGCは24年に事業が大きく飛躍した。25年は主要なお客様の需要動向の影響を一定程度の受ける可能性があるが、26年以降は再び高い成長率を示すことが見込まれる。

Q14：北米のロジック半導体メーカーはコスト削減を積極的に行っているようだが、EUVマスクブランクの見通しに関して、期初時点から変化はあるか。

A14：お客様のことなので詳細コメントは差し控えるが、25年はやや出荷が減少する可能性は出てくるだろう。この影響を軽減するため、お客様基盤を広げ、他のお客様への拡販を進めることが重要な局面と考えている。

Q15：アジアの塩ビ市況が弱含んでいるが、タイでの能力増強スケジュールに変更はあるか？塩ビ・苛性ソーダの市況見通しについても併せて教えてほしい。

A15：タイの増設設備について、今年半ばに稼働開始という見通しに変更はない。徐々に稼働を上げていくため、出荷数量は増加する見通しであるものの、利益への貢献は限定的と想定している。苛性ソーダ市況は回復基調であったが、足元価格上昇は落ち着いており、現時点の水準が継続するものと見ている。塩ビ市況は中国建築市況の低迷に伴い、引き続き低調に推移するだろう。

Q16：パネルメーカーの稼働率の見通しだが、同業他社は4-6月期の終わりから稼働率が下がり始めることを警戒している様子。AGCの見方はどうか？

A16：現時点、特段の変化はない。2Qの出荷は1Q比数%増加する見通しであるが、5月からパネルメーカーの稼働調整の話が聞こえてきているので、6月以降は状況注視が必要と考えている。

Q17：イメージセンサー用ガラスフィルターの売上高は、会社計画にどのように織り込まれているか？関税影響もあり、スマートフォンの需要の見え方は、3ヶ月前からかなり変わってきているように感じるが、ダウンサイドリスクをどのように捉えているか？

A17：イメージセンサー用ガラスフィルターの出荷は、品種切替のタイミングなどにより、今年は弱含む旨をすでに年初に説明済みである。この見方に変更はない。関税影響については、お客様がサプライチェーンをどのように考えるのか、また、中国から米国内向けの製品輸出がどのような影響を受けるかにも因るため、当社が現時点で推定することは難しい。

以 上